

「文庫派」の詩人たちを輩出し、

文学青年の「共和国」を

形成した投書雑誌。

明治文学の生産と享受の

場をさぐる貴重な資料！

【復刻版】

文庫

全四〇巻・別冊一



解題＝閔肇(京都光華女子大学文学部助教授)

推薦者＝上笙一郎、紅野謙介、近藤信行、野山嘉正

原本発行元＝少年園(のち内外出版協会と改称)

配本＝全10回配本(1905年2月～1908年9月)

本体価格＝八九八、〇〇〇円+税

明治二八年八月～明治四三年八月刊(通巻一四四冊)

原本発行元＝少年園(のち内外出版協会と改称)

不二出版

文学青年の「共和国」

【文庫】復刻版刊行にあたって——関肇

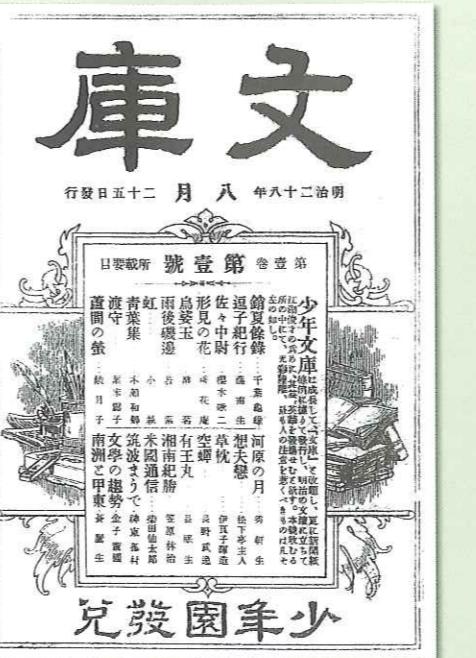
明治文学の隆盛を支えていた主要な基盤は、近代教育の普及にともなって高いリテラシーを身につけた文学青年た

ちなかな 青年たちはこの時代に数多く登場した掲書小説論
という活字メディアに集い、文学のすぐれた読み手として
相互に親密なコミュニケーションを結び、あるいは自らも文
学の書き手になることをめざして表現の腕を競い合つた。
投書雑誌に掲げられた文学青年たちの熱のこもった表現
のあり方を探るなら、文学の生産と享受の場に降り立つこ
とができるだろう。

投書雑誌「文庫」は明治十八（一八九五）年の創刊から四十三年の終刊まで、足かけ十六年間の長きにわたって刊行され、文学青年たちに広く愛読された。山県悌三郎が経営する『少年園』を母体として誕生し、田岡嶺雲が先鋭的な批評活動を展開した『青年文』の兄弟誌にあたる。編集は河井醉茗・五十嵐白蓮・小島烏水・千葉亀雄ら、当初まだ二十歳前後の青年たちが中心となり、文学にも商業主

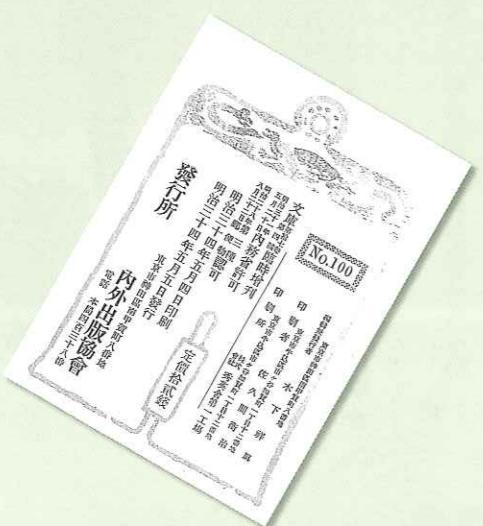


第17卷第4号(明治34年5月)上刊



1巻第1号(明治28年8月)より

本 號 風 次									
キュウサビッド（収音の部屋）					松 風 (K. H. S. - 17th March 1936)				
本卷に題す					高岡屋松風會の記				
松風會撮影					名古屋松風會の記				
乗鞍嶺に登る記					高岡文庫誌友會の記				
陽 炎					征矢の光				
梅妻鶴子					寂 寥				
まほろし					奥伊豆				
ニューヨークの畫學生					清國通信				
みな川					八重一重				
飛 范					弟の便り得し夜に				
春期松風會の記					落葉の雨				
服 部					暮 春 歌				
躬 治					親の手紙				
解 詩					蓑衣の雨				
表 紙					和 歌				
畫 嘲					佛 句				
中 村					解 読				
一 記					詩 歌				
者 不 折					歌 著				
岩 清 川 遊					晴 月				
内 船 鳴 雪 遊					秋 生				
服 部 脊 治 遊					白 紫				
達 遊					う つ				
晴 月					平 生				
者 雨					者 雨				



乘轎に登る前、一場の物語あり。
　昨年の秋、私は信濃國の二大流、信濃川と木曾川との分水嶺として、木曾街道に沿へる谿間の門戸として、長蛇路に當りて蜿ねれる鳥井峠の絶頂、海拔四千百二十餘尺の高きところに「雲雀より上に休らる峠かな」の句を彫みある塚を背にして憩ひたることありき。腰を据ゑたるあたりは、さまで廣からぬねど、一面芝原の坊主山にして、八重櫻より入り亂れたる徑は茨を負ひ萱に夾まれて、斜にだら／＼と下方藪原の破驛へと通へる眺めやりながら、その破驛には屋根の上に參石を載せたる古家の齒列び惡しき昔に方り、碁盤の目のごとき水田寸碧なく、わづかに黃ろく乾いたる刈科を殘したるまゝにて展開され、その末は舊くは拓かれざるらしき三間幅の坂路、乙字に曲りて、遙か坤の方に折り累なれる山の中へと分け行くを、いづこへの通路なるべきと、やを懐中の地圖を押しひろげて接ふるに、こゝより凡そ十九里計ありとぞ

いふなる飛驒高山への街道なり。是ある哉路に當りて峻嶺嵯
峨として環り峙ち、合沓曼衍、洗ふが如き秋空に横はりて目
を障ぐるは日本の山水窟なる飛驒の山々に外ならざるべし、
こゝは信濃より飛驒に通ずる唯一の捷徑にして、近くは木曾
の仙寢たる小木曾の里、遙か奥には高山の東南一里餘なる中
央山脈の一部美女嶺、信飛の境なる東方山脈の凹口を開ける
野麥峠など、盤回して驥馬に跨れる旅客は林を潛り、斧斤曾
て入らざる森に分け入り、それよ、今頃は暗に近けれども夜は
明け放れず、往手の空に茜させども手綱搔い縁る掌の甲に光
を浴びず。さらぬだに秋の朝は滋き露衣に透りて、吐く息白
く狹霧を山に罩めつべきに、高浪をうつごとく曳起體落せる
高き山、低き山、十重二十重に折り疊なりて、人馬ともに闇
寂に融けやせむと危し、殊にこの野麥峠は南は木曾梁洞の諸
山に連り、北は乘鞍嶽の山趾に接して、一夫刑罰を横へて路に
當りて待てば、万騎奈何ともするなき稀世の險山にして、冬
は踏む人なき積雪凝て水晶の屏風を建てめぐらし。空山寂と
して禽の囀りさへ覺束なく、落木凝て琅玕の骨と化す仙郷な
り。この峠には『野麥の婆さん』とてこの路にかゝりて凍死
に至んとする旅人を介抱するに慣れたる志篤某一軒茶屋の娘
ありて。春来れば里人米鹽新炭を送りてその志に酬ふるを例
とする話など聞きて『山中人自正』といひけむ。詩のたゞと
き意味を會し、淺ましきかな功名角上に多地なし、いしくも
木曾の山中に遁れ來つるよと、何とは知らず微笑して、幼き
ころ大綿小綿飯くはよなぞ揶揄したる小蟲の、絲を紡ぐや
うに眼前咫尺を十文字に飛び交ふを無心に見詰め入らえたると

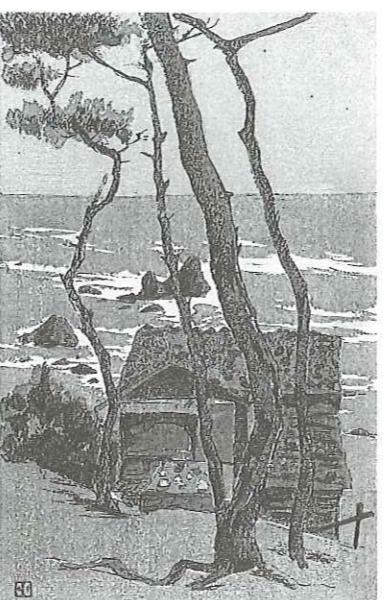
児童文学研究にも大きな福音

上 筏一郎(児童文化研究家)

近代日本の児童文化は、少年投稿雑誌の『頴才新誌』(一八七七年創刊)からはじまっている。およそ十年後に少年園社が同じく少年投稿雑誌『少年園』(一八八八年)を創刊したが、山成す投稿文を掲載されず、翌年より別途に『少年文庫』も創刊せざるを得なかつた。

当初の投稿文はいずれも幼いものだったが、しかし継続は力であり、歳月は内容を磨き充実させて、もはや少年投稿文の域を越えなんとするまでになつた。そこで少年園社では、誌名より「少年」の二字を取り去つて『文庫』とし、いわば『青年投稿・文学雑誌』としたのである。

日本近代詩史における『文庫派』の人たちをはじめ数えきれぬ程の詩人・



歌人・小説家・随筆家・評論家がこれから巣立つたが、大正期児童文学の創造者の多くも、また、この誌に由縁を持つていたとしなくてはならない。すなわち、童謡詩人としても巨大な北原白秋・三木露風をはじめ横瀬夜雨・相馬御風・川路柳虹・有本芳水・平井晩村、歌人で童謡にも力を入れた島木赤彦・若山牧水、および日本最初と言つてよい児童文学理論家の蘆谷蘆村、その他その他。

『文庫』は近代日本の青年たちに開かれた『文学の自由道場』だつたわけであり、日本近代文学の基底を培つたメディアとして、研究者必見の雑誌である。そして児童文学研究においても重要であり、研究者は多大の情報を得ることが出来、いろいろと教えられるに違いない。

紅野謙介(日本大学文理学部教授)

『文庫』の明治三十七年七月号に夢哲坊という署名になる「六号活字」が載つてゐる。記事は當時「文学熱心の青年」に流行してた「三つの病氣」を伝えてゐる。その「病氣」は「雑誌書籍乱買病」「雑誌発行病」「懸賞応募病」。

重篤な病いの青年たちが多いことをそゝの筆者は嘆いてゐる。しかし、雑誌や書籍を「乱買」し、自分たちでも「發行」してみたいという欲望に火をつけらるさつかけを作つたのが、投書・投稿雑誌としての『文庫』自体だった。

明治政府が出来てからおよそ二年。教育制度がととのうにつれて、形式的な学校教育では満足できない青年たちがあふれてきた。古くさい「国漢」の授業では満たされない。そとには魅力的な文学が徐々にあらわれている。しかも、この時期の文学はまだ若々しく、その未来の担い手を広く求めていた。こうした要望に応え、投書

の広場を打ち出したのが

『文庫』である。明治二十八年創刊の『文庫』は、青年たちの活字へ

の思いをキヤッチする受け皿であった。

やがて明治三十年代は投書欄や懸賞小説欄のある雑誌・新聞の全盛期となつた。

それらのメディアがかれらの新たな学校となり、見栄のはりどころとなつたのである。なかには不純な欲望につきうごかされ、剽窃や偽筆も横行するのだが、先陣を切つた『文庫』はそうした悪弊を嘆きつつ、文学への清純な憧憬を演出しつづけることになる。

日露戦争後に開花するといわれる日本近代文学の生産と享受、そして文学再生産のシステムがここにはある。『文庫』を解明することが文学をめぐる文化研究に求められているのである。



文学が輝いていた時代

野山嘉正(放送大学教授)

明治の青春



近藤信行(作家・山梨県立文学館館長)

山縣悌三郎主宰の『文庫』を考えるとき、そこは文学を志すものの自由な天地だったことにおもいあたります。日清戦後から日露戦後の時代にかけて、若ものたちはこの雑誌に投稿することによって、おれのこころをうつしこんできました。『文庫』からは、のち文壇、学界などで多くの人材を輩出していくまです。その点では、明治後半期の青春そのものだったともいいます。

明治三八年、長詩「全都覚醒賦」で登場した北原白秋は、『文庫』詩壇について、おのずと河井醉茗のもとにあつた「環状星雲」だと書いたことがあります。その意味では、記者の存在は大きかったともいいます。初期には高瀬文淵、瀧澤秋曉、そして醉茗、五十嵐

白蓮、小島鳥水、千葉龜雄らがくわわつて、執筆のかたわら投稿を取捨選択、こまやかな加評文を書いています。そこからは記者と誌友とのあいだの親密な人間ドラマが生まれました。『文庫』のもうろいところです。

歴史家としての曲亭馬琴、「横浜に於ける外商と内商」、「葉女史」などを書いて『文庫』記者に抜擢された小島烏水は、明治三十年代にはいつから精力的に登山紀行、山岳研究を発表しました。

従来の山水旅行趣味から脱皮した、あらたな山の文学の世界をさづきました。

その代表的なものは「鎌ヶ岳探険記」、「日本山岳美論」ですが、それらの作品は、青年たちに大きな影響をあたえ、ましだが、その意味では、記者の存在は大きかったともいいます。初期には高瀬文淵、瀧澤秋曉、そして醉茗、五十嵐

をそこに刻みこんでいます。『文庫』にあつた人々は、それぞれ青春のあかし

明治文学の広大な裾野は、社会的な上昇志向にさながら乗つた青少年の投稿意欲に支えられたと言われているが、その巨大な集塊の代表的存在が雑誌『文庫』である。その特色は、詩歌を中心とする練達の選者が才能を見抜いて抜擢する仕組みにある。漢詩の岩渕裳川、俳句の内藤鳴雪、和歌の服部躬治らが直ぐに想起されるが、問題は発足してさほど年を経ていない新体詩にあつた。もちろんそれだから目玉になつたということでもあるが、明治二十年代の創刊だから、まだまだゆくえが不透明で、実際には明治三十年後に新体詩運動促進の動きが活発になつたのであった。『文庫』が『明星』のさきがけの役をつとめたという説の根拠はこういう歴史にあり、選者自身が

新時代の中を駆け抜けしていくべき使命感を帯びていたのである。河井醉茗らの新体詩選者の立場は、そのように躍動的であつて、言わば指南役が研鑽の立した舞台が『文庫』にあつたことは誰もが認める事実である。『文庫』復刻版は、広く文学に果敢に挑戦した青少年のアンビションを、永遠に記録する空前のデータベースであり、その存在がさながら偉容を成している。

文庫 藤原 謙正
元 風 韋 月
精 力。

明治の青春

復刻版

文庫

概要

● 体裁 = A5判・B5判・上製・総約一四、九四〇頁

● 定価 = 本体価格八九八、〇〇〇円+税

● 別冊 = 解題(関肇)・総目次・索引

(別冊のみ分売可) 本体価格八〇〇〇+税 ISBN4-8350-5619-1

● 配本 = 全一〇回配本(二〇〇五年二月)~(二〇〇八年九月)

配本	復刻版 卷数	原本卷号	原本発行年月	配本年月 本体価格					
第1回配本	第2回配本	第3回配本	第4回配本	第5回配本	第1卷	第2卷	第3卷	第4卷	第5卷
2005年度合計176,000円+税	2005年11月 88,000円+税 4-8350-5594-2	2006年2月 88,000円+税 4-8350-5599-3	2006年5月 88,000円+税 4-8350-5604-3	2006年9月 88,000円+税 4-8350-5609-4	第1卷 第1号~6号	第2卷 第2号~6号	第3卷 第3号~6号	第4卷 第4号~6号	第5卷 第5号~6号
2006年12月 106,000円+税 4-8350-5614-0	2006年12月 106,000円+税 4-8350-5614-0	2007年2月 88,000円+税 4-8350-5625-6	2007年5月 88,000円+税 4-8350-5620-5	2007年9月 88,000円+税 4-8350-5630-2	第6卷 第6号	第7卷 第7号~6号	第8卷 第8号~6号	第9卷 第9号~6号	第10卷 第10号~6号
2007年9月 88,000円+税 4-8350-5635-3	2008年5月 88,000円+税 4-8350-5640-X	2008年9月 88,000円+税 4-8350-5644-4	2009年3月 88,000円+税 4-8350-5648-4	2009年9月 88,000円+税 4-8350-5652-3	第11卷 第11号~32号	第12卷 第12号~6号	第13卷 第13号~6号	第14卷 第14号~6号	第15卷 第15号~6号
2009年9月 88,000円+税 4-8350-5656-2	2010年5月 88,000円+税 4-8350-5660-1	2010年9月 88,000円+税 4-8350-5664-0	2011年3月 88,000円+税 4-8350-5668-9	2011年9月 88,000円+税 4-8350-5672-8	第16卷 第16号~6号	第17卷 第17号~6号	第18卷 第18号~6号	第19卷 第19号~6号	第20卷 第20号~6号
2011年9月 88,000円+税 4-8350-5676-7	2012年5月 88,000円+税 4-8350-5680-6	2012年9月 88,000円+税 4-8350-5684-5	2013年3月 88,000円+税 4-8350-5688-4	2013年9月 88,000円+税 4-8350-5692-3	第21卷 第21号~6号	第22卷 第22号~6号	第23卷 第23号~6号	第24卷 第24号~6号	第25卷 第25号~6号
2013年9月 88,000円+税 4-8350-5696-2	2014年5月 88,000円+税 4-8350-5700-1	2014年9月 88,000円+税 4-8350-5704-0	2015年3月 88,000円+税 4-8350-5708-9	2015年9月 88,000円+税 4-8350-5712-8	第26卷 第26号~6号	第27卷 第27号~6号	第28卷 第28号~6号	第29卷 第29号~6号	第30卷 第30号~6号
2015年9月 88,000円+税 4-8350-5716-7	2016年5月 88,000円+税 4-8350-5720-6	2016年9月 88,000円+税 4-8350-5724-5	2017年3月 88,000円+税 4-8350-5728-4	2017年9月 88,000円+税 4-8350-5732-3	第31卷 第31号~6号	第32卷 第32号~6号	第33卷 第33号~6号	第34卷 第34号~6号	第35卷 第35号~6号
2017年9月 88,000円+税 4-8350-5736-2	2018年5月 88,000円+税 4-8350-5740-1	2018年9月 88,000円+税 4-8350-5744-0	2019年3月 88,000円+税 4-8350-5748-9	2019年9月 88,000円+税 4-8350-5752-8	第36卷 第36号~6号	第37卷 第37号~6号	第38卷 第38号~6号	第39卷 第39号~6号	第40卷 第40号~12号
2019年9月 88,000円+税 4-8350-5756-7	2020年5月 88,000円+税 4-8350-5760-6	2020年9月 88,000円+税 4-8350-5764-5	2021年3月 88,000円+税 4-8350-5768-4	2021年9月 88,000円+税 4-8350-5772-3	第41卷 第41号~6号	第42卷 第42号~8号	第43卷 第43号~8号	第44卷 第44号~6号	第45卷 第45号~6号
2021年9月 88,000円+税 4-8350-5776-2	2022年5月 88,000円+税 4-8350-5780-1	2022年9月 88,000円+税 4-8350-5784-0	2023年3月 88,000円+税 4-8350-5788-9	2023年9月 88,000円+税 4-8350-5792-8	第46卷 第46号~6号	第47卷 第47号~6号	第48卷 第48号~6号	第49卷 第49号~6号	第50卷 第50号~6号
2023年9月 88,000円+税 4-8350-5796-7	2024年5月 88,000円+税 4-8350-5800-6	2024年9月 88,000円+税 4-8350-5804-5	2025年3月 88,000円+税 4-8350-5808-4	2025年9月 88,000円+税 4-8350-5812-3	第51卷 第51号~6号	第52卷 第52号~6号	第53卷 第53号~6号	第54卷 第54号~6号	第55卷 第55号~6号
2025年9月 88,000円+税 4-8350-5816-2	2026年5月 88,000円+税 4-8350-5820-1	2026年9月 88,000円+税 4-8350-5824-0	2027年3月 88,000円+税 4-8350-5828-9	2027年9月 88,000円+税 4-8350-5832-8	第56卷 第56号~6号	第57卷 第57号~6号	第58卷 第58号~6号	第59卷 第59号~6号	第60卷 第60号~6号
2027年9月 88,000円+税 4-8350-5836-7	2028年5月 88,000円+税 4-8350-5840-6	2028年9月 88,000円+税 4-8350-5844-5	2029年3月 88,000円+税 4-8350-5848-4	2029年9月 88,000円+税 4-8350-5852-3	第61卷 第61号~6号	第62卷 第62号~6号	第63卷 第63号~6号	第64卷 第64号~6号	第65卷 第65号~6号
2029年9月 88,000円+税 4-8350-5856-2	2030年5月 88,000円+税 4-8350-5860-1	2030年9月 88,000円+税 4-8350-5864-0	2031年3月 88,000円+税 4-8350-5868-9	2031年9月 88,000円+税 4-8350-5872-8	第66卷 第66号~6号	第67卷 第67号~6号	第68卷 第68号~6号	第69卷 第69号~6号	第70卷 第70号~6号
2031年9月 88,000円+税 4-8350-5876-7	2032年5月 88,000円+税 4-8350-5880-6	2032年9月 88,000円+税 4-8350-5884-5	2033年3月 88,000円+税 4-8350-5888-4	2033年9月 88,000円+税 4-8350-5892-3	第71卷 第71号~6号	第72卷 第72号~6号	第73卷 第73号~6号	第74卷 第74号~6号	第75卷 第75号~6号
2033年9月 88,000円+税 4-8350-5896-2	2034年5月 88,000円+税 4-8350-5900-1	2034年9月 88,000円+税 4-8350-5904-0	2035年3月 88,000円+税 4-8350-5908-9	2035年9月 88,000円+税 4-8350-5912-8	第76卷 第76号~6号	第77卷 第77号~6号	第78卷 第78号~6号	第79卷 第79号~6号	第80卷 第80号~6号
2035年9月 88,000円+税 4-8350-5916-7	2036年5月 88,000円+税 4-8350-5920-6	2036年9月 88,000円+税 4-8350-5924-5	2037年3月 88,000円+税 4-8350-5928-4	2037年9月 88,000円+税 4-8350-5932-3	第81卷 第81号~6号	第82卷 第82号~6号	第83卷 第83号~6号	第84卷 第84号~6号	第85卷 第85号~6号
2037年9月 88,000円+税 4-8350-5936-2	2038年5月 88,000円+税 4-8350-5940-1	2038年9月 88,000円+税 4-8350-5944-0	2039年3月 88,000円+税 4-8350-5948-9	2039年9月 88,000円+税 4-8350-5952-8	第86卷 第86号~6号	第87卷 第87号~6号	第88卷 第88号~6号	第89卷 第89号~6号	第90卷 第90号~6号
2039年9月 88,000円+税 4-8350-5956-7	2040年5月 88,000円+税 4-8350-5960-6	2040年9月 88,000円+税 4-8350-5964-5	2041年3月 88,000円+税 4-8350-5968-4	2041年9月 88,000円+税 4-8350-5972-3	第91卷 第91号~6号	第92卷 第92号~6号	第93卷 第93号~6号	第94卷 第94号~6号	第95卷 第95号~6号
2041年9月 88,000円+税 4-8350-5976-2	2042年5月 88,000円+税 4-8350-5980-1	2042年9月 88,000円+税 4-8350-5984-0	2043年3月 88,000円+税 4-8350-5988-9	2043年9月 88,000円+税 4-8350-5992-8	第96卷 第96号~6号	第97卷 第97号~6号	第98卷 第98号~6号	第99卷 第99号~6号	第100卷 第100号~6号
2043年9月 88,000円+税 4-8350-5996-7	2044年5月 88,000円+税 4-8350-6000-6	2044年9月 88,000円+税 4-8350-6004-5	2045年3月 88,000円+税 4-8350-6008-4	2045年9月 88,000円+税 4-8350-6012-3	第101卷 第101号~6号	第102卷 第102号~6号	第103卷 第103号~6号	第104卷 第104号~6号	第105卷 第105号~6号
2045年9月 88,000円+税 4-8350-6016-2	2046年5月 88,000円+税 4-8350-6020-1	2046年9月 88,000円+税 4-8350-6024-0	2047年3月 88,000円+税 4-8350-6028-9	2047年9月 88,000円+税 4-8350-6032-8	第106卷 第106号~6号	第107卷 第107号~6号	第108卷 第108号~6号	第109卷 第109号~6号	第110卷 第110号~6号
2047年9月 88,000円+税 4-8350-6036-7	2048年5月 88,000円+税 4-8350-6040-6	2048年9月 88,000円+税 4-8350-6044-5	2049年3月 88,000円+税 4-8350-6048-4	2049年9月 88,000円+税 4-8350-6052-3	第111卷 第111号~6号	第112卷 第112号~6号	第113卷 第113号~6号	第114卷 第114号~6号	第115卷 第115号~6号
2049年9月 88,000円+税 4-8350-6056-2	2050年5月 88,000円+税 4-8350-6060-1	2050年9月 88,000円+税 4-8350-6064-0	2051年3月 88,000円+税 4-8350-6068-9	2051年9月 88,000円+税 4-8350-6072-8	第116卷 第116号~6号	第117卷 第117号~6号	第118卷 第118号~6号	第119卷 第119号~6号	第120卷 第120号~6号
2051年9月 88,000円+税 4-8350-6076-7	2052年5月 88,000円+税 4-8350-6080-6	2052年9月 88,000円+税 4-8350-6084-5	2053年3月 88,000円+税 4-8350-6088-4	2053年9月 88,000円+税 4-8350-6092-3	第121卷 第121号~6号	第122卷 第122号~6号	第123卷 第123号~6号	第124卷 第124号~6号	第125卷 第125号~6号
2053年9月 88,000円+税 4-8350-6096-2	2054年5月 88,000円+税 4-8350-6100-1	2054年9月 88,000円+税 4-8350-6104-0	2055年3月 88,000円+税 4-8350-6108-9	2055年9月 88,000円+税 4-8350-6112-8	第126卷 第126号~6号	第127卷 第127号~6号	第128卷 第128号~6号	第129卷 第129号~6号	第130卷 第130号~6号
2055年9月 88,000円+税 4-8350-6116-7	2056年5月 88,000円+税 4-8350-6120-6	2056年9月 88,000円+税 4-8350-6124-5	2057年3月 88,000円+税 4-8350-6128-4	2057年9月 88,000円+税 4-8350-6132-3	第131卷 第131号~6号	第132卷 第132号~6号	第133卷 第133号~6号	第134卷 第134号~6号	第135卷 第135号~6号
2057年9月 88,000円+税 4-8350-6136-2	2058年5月 88,000円+税 4-8350-6140-1	2058年9月 88,000円+税 4-8350-6144-0	2059年3月 88,000円+税 4-8350-6148-9	2059年9月 88,000円+税 4-8350-6152-8	第136卷 第136号~6号	第137卷 第137号~6号	第138卷 第138号~6号	第139卷 第139号~6号	第140卷 第140号~6号
2059年9月 88,000円+税 4-8350-6156-7	2060年5月 88,000円+税 4-8350-6160-6	2060年9月 88,000円+税 4-8350-6164-5	2061年3月 88,000円+税 4-8350-6168-4	2061年9月 88,000円+税 4-8350-6172-3	第141卷 第141号~6号	第142卷 第142号~6号	第143卷 第143号~6号	第144卷 第144号~6号	第145卷 第145号~6号
2061年9月 88,000円+税 4-8350-6176-2	2062年5月 88,000円+税 4-8350-6180-1	2062年9月 88,000円+税 4-8350-6184-0	2063年3月 88,000円+税 4-8350-6188-9	2063年9月 88,000円+税 4-8350-6192-8	第146卷 第146号~6号	第147卷 第147号~6号	第148卷 第148号~6号	第149卷 第149号~6号	第150卷 第150号~6号
2063年9月 88,000円+税 4-8350-6196-7	2064年5月 88,000円+税 4-8350-6200-6	2064年9月 88,000円+税 4-8350-6204-5	2065年3月 88,000円+税 4-8350-6208-4	2065年9月 88,000円+税 4-8350-6212-3	第151卷 第151号~6号	第152卷 第152号~6号	第153卷 第153号~6号	第154卷 第154号~6号	第155卷 第155号~6号
2065年9月 88,000円+税 4-8350-6216-2	2066年5月 88,000円+税 4-8350-6220-1	2066年9月 88,000円+税 4-8350-6224-0	2067年3月 88,000円+税 4-8350-6228-9	2067年9月 88,000円+税 4-8350-6232-8	第156卷 第156号~6号	第157卷 第157号~6号	第158卷 第158号~6号	第159卷 第159号~6号	第160卷 第160号~6号
2067年9月 88,000円+税 4-8350-6236-7	2068年5月 88,000円+税 4-8350-6240-6	2068年9月 88,000円+税 4-8350-6244-5	2069年3月 88,000円+税 4-8350-6248-4	2069年9月 88,000円+税 4-8350-6252-3	第161卷 第161号~6号	第162卷 第162号~6号	第163卷 第163号~6号	第164卷 第164号~6号	第165卷 第165号~6号
2069年9月 88,000円+税 4-8350-6256-2	2070年5月 88,000円+税 4-8350-6260-1	2070年9月 88,000円+税 4-8350-6264-0	2071年3月 88,000円+税 4-8350-6268-9	2071年9月 88,000円+税 4-8350-6272-8	第166卷 第166号~6号	第167卷 第167号~6号	第168卷 第168号~6号	第169卷 第169号~6号	第170卷 第170号~6号
2071年9月 88,000円+税 4-8350-6276-7	2072年5月 88,000円+税 4-8350-6280-6	2072年9月 88,000円+税 4-8350-6284-5	2073年3月 88,000円+税 4-8350-6288-4	2073年9月 88,000円+税 4-8350-6292-3	第171卷 第171号~6号	第172卷 第172号~6号	第173卷 第173号~6号	第174卷 第174号~6号	第175卷 第175号~6号
2073年9月 88,000円+税 4-8350-6296-2	2074年5月 88,000円+税 4-8350-6300-1	2074年9月 88,000円+税 4-8350-6304-0	2075年3月 88,000円+税 4-8350-6308-9	2075年9月 88,000円+税 4-8350-6312-8	第176卷 第176号~6号	第177卷 第177号~6号	第178卷 第178号~6号	第179卷 第179号~6号	第180卷 第180号~6号
2075年9月 88,000円+税 4-8350-6316-7	2076年5月 88,000円+税 4-8350-6320-6	2076年9月 88,000円+税 4-8350-6324-5	2077年3月 88,000円+税 4-8350-6328-4	2077年9月 88,000円+税 4-8350-63					